

企画展「人間・苒雄二」を開催しました

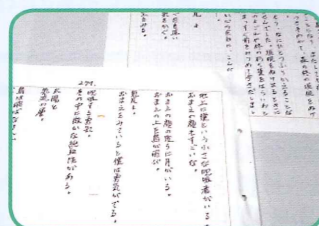
当館の開設に尽力され、平成26年5月に亡くなった苒雄二さんをテーマにした企画展、「人間・苒雄二」を開催しました。会期中の平成28年10月12日から11月13日までの間に、延べ1,247人のお客様にご観覧頂き、同時に上映したドキュメント映像「熊笹の尾根の生涯－人間・苒雄二・ハンセン病とともに生きる－」と併せてご好評を頂きました。会場には生前苒さんが愛用した電動車椅子などのほか、新たに発見された300頁近い手書きの原稿、若い頃に千葉寮で居候していた時に沢田二郎氏から贈られたサルトル全集なども展示し、鬼太郎の目玉オヤジがハンセン病だった事を知った苒さんが療養所のマスコットにしようとして奔走したエピソードに、訪れた人達もびっくり仰天していました。



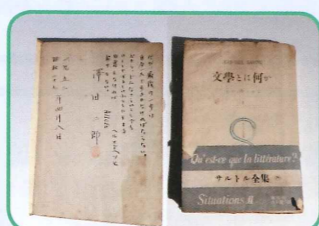
元西毛新聞の記者で作家だった瀬木悦夫が、自らの取材に基づいて発表した小説「特別病室」の初版本。若き日の沢田や苒達も影響を受けたと言われる。



【企画展コーナー】



【苒さん手書きの原稿】



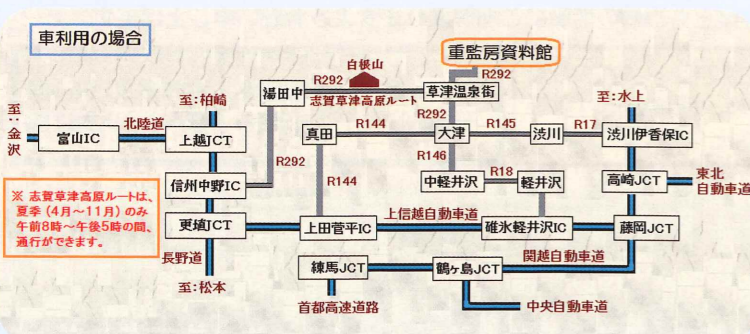
【沢田二郎から贈られたサルトル全集とサイン】

国内に現存する3冊のうちの1冊、今回特別にこの企画展のために草津町立草津温泉図書館のご好意で展示させていただきました。現在は閲覧禁止となっている貴重本です。

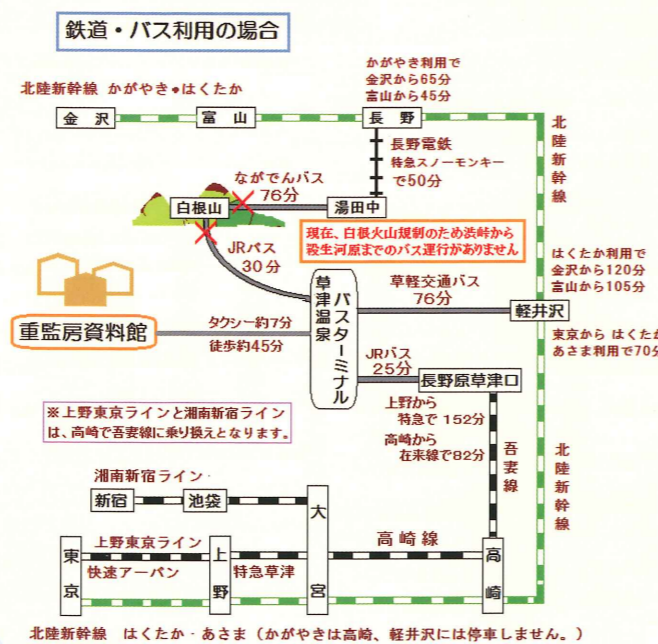
ご利用案内・アクセス

※個人見学は4月26日から11月14日の期間となりますのでご承知おきください。

| 区分 | フルオープン期間(4月26日～11月14日) | 団体専用期間(11月15日～4月25日) |
|------|----------------------------------|-----------------------------------|
| 受付対象 | 個人及び団体 | 団体・学校 予約のみ |
| 開館時間 | 午前9時30分～午後4時00分 (最終入館午後3時30分) | 午前10時00分～午後3時30分 (最終入館午後3時00分) |
| 休館日 | 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)・国民の祝日・年末年始・館内整理日 | |



入館料…無料

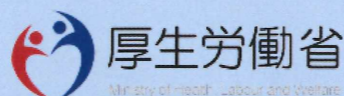


重監房資料館だより「くりう」第9号【季刊】

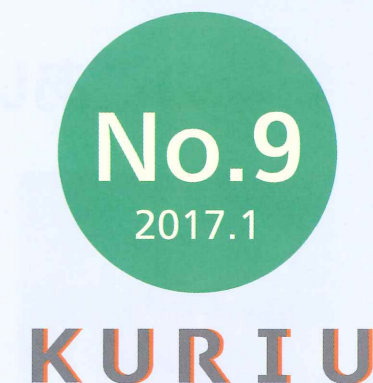
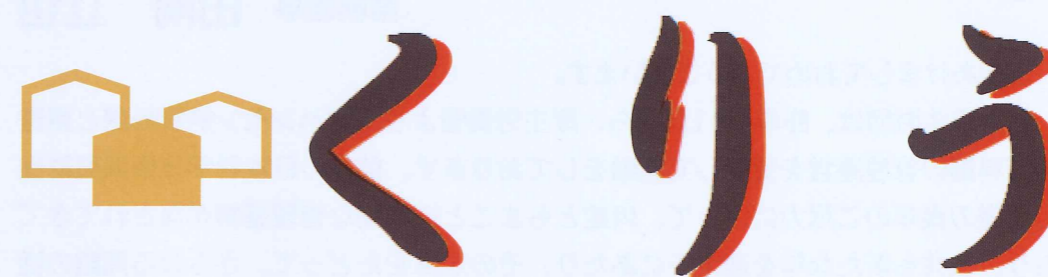
発行日：平成29年(2017年)1月1日/企画・編集・発行：重監房資料館

〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根464-1533 TEL：0279-88-1550 URL：http://sjpm.hansen-dis.jp/

重監房資料館はハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指して国(厚生労働省)が設置した国立の資料館で入館は無料です。



重監房資料館だより



年頭所感



厚生労働省健康局
難病対策課長
平岩 勝

新年明けましておめでとうございます。

年頭に当たり、謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

昨年6月に健康局難病対策課長に就任し、ハンセン病対策を担当することとなりました。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、ハンセン病問題の解決に向けた施策につきましては、厚生労働省といたしまして、これまで、「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」の趣旨を踏まえ、入所者の皆様方の御意見・御要望を伺いながら、その実施に努めてきたところであります。

ハンセン病は、発病力が弱く、また、発病しても適切な治療により治癒する病気となっているにもかかわらず、「らい予防法」の廃止が遅れたこと等により、長年にわたり、ハンセン病の元患者の方々の尊厳を傷つけ、多くの痛みと苦しみを与えてしまいました。

これまでのハンセン病問題を反省し、二度と繰り返してはならないこの歴史を後世に確実に伝えていくことが重要であり、我々の責務であると認識しております。

このためには、国立のハンセン病資料館の充実が欠かせません。

重監房資料館は、平成26年4月の開館以来、2万人を超える多くの方々に御来館いただいております。入所者の方々の御協力をいただきながら開催している、「語り部の日」も好評を頂いております。

また、昨年10月には、重監房資料館の設立に御尽力され、平成26年5月に亡くなられた苒雄二さんの半生を描いた企画展「人間・苒雄二」を開催し、多くの方々に来館いただきました。

引き続き、来館者の御意見を取り入れながら、これからも、この重監房資料館を、ハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指す普及啓発の拠点として、大いに活用してまいります。より多くの方に訪れていただける資料館となるよう、学芸員等スタッフとともに努力してまいります。

平成29年1月

新年のごあいさつ

公益財団法人 日本財団
常務理事 田南 立也



新年あけましておめでとうございます。

私共日本財団は、昨年4月1日から、厚生労働省より国立ハンセン病資料館と重監房資料館の管理運営を受託して活動をしております。前任の日本科学技術振興財団の皆様のご尽力によって、両館ともまことに順調な管理運営がなされてきており、私共も新たな年を迎えるにあたり、その足跡をたどって、さらなる両館の活動の進展のためにできる限りの努力をさせていただき所存であります。

今年は重監房資料館が開館して4年目となります。ハンセン病の患者、回復者そしてその家族に対する偏見と差別は、世界中共通してみられる人類が犯してきた大きな誤りではありますが、この重監房資料館に残る人権侵害の歴史は他に類を見ない

もっとも悲惨な歴史であります。病気にかかったことが理由で、強制的な隔離のみならず、懲罰と称して裁判もなしに人を人と思わぬ過酷な監房での生活を強いた当時の国家の誤りは、私たちから次世代へと風化させることなく継承してゆくべき負の遺産です。ここで問われているのは人間の尊厳の問題です。

重監房資料館は、そのような人間の尊厳を、人権の問題を、深く人々に考えてもらうための施設であります。そしてその活動を通じて、日本のみならず世界の人々、特に若い世代の人々に過去の過ちを伝え、そのために過酷な運命を生きた人々の思いを知り、受け止め、これからの社会を形成してゆく道しるべとしていただきたいと思います。そのために私共、できる限りの努力をまいります。

新年に当たり、皆様方のご理解、ご協力を引き続き賜りますよう心よりお願い申し上げます。

重監房資料館運営委員会より年頭のごあいさつ

皆様、あけましておめでとうございます。お陰様で当館も一昨年のオープン以来2万人を超えるお客様にご来館頂き、多くの皆様の人権学習や研修等にご利用頂きました。これもひとえに皆様のご理解とご協力の賜と深く感謝申し上げますとともに、本年も引き続きご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



運営委員長 草津町長 黒岩 信忠
委員長代理 草津町福祉課長 沖津 則夫
運営委員 草津町議会議員 上坂 国良
運営委員 入所者自治会長 藤田 三四郎
運営委員 自治会副会長 岸 従一
運営委員 群馬県保健予防課長 津久井 智
運営委員 栗生楽泉園福祉課長 小林 美博



運営委員 新潟大学大学院教授 宮坂 道夫
運営委員 明日を創る会 羽部 光男
運営委員 弁護士 杉原 信二
運営委員 弁護士 鮎京 真知子
運営委員 WHO/ハンセン病、テクニカルアドバイザー 松岡 正典
運営委員 国立ハンセン病資料館 学芸部長 黒尾 和久
事務局 重監房資料館 主任学芸員 北原 誠

平成28年中の主な活動

・学術研究発表

当館学芸員等が調査・研究の成果を学術大会で発表しました。

- 平成28年5月28日～29日 日本考古学協会第82回総会・研究発表（於：東京学芸大学）
発表演題：特別病室（重監房）跡地における考古学調査-国立ハンセン病療養所栗生楽泉園（群馬県草津町内）所在-
発表者：黒尾和久・渋江芳浩・北原誠
- 平成28年6月6日～8日 第89回日本ハンセン病学会（於：草津町、ホテルヴィレッジ）
発表演題：特別病室（重監房）の倒壊と地盤の関係に関する検討
発表者：北原誠・黒尾和久

・学校教育支援

社会教育機能の一環として、学校教育等の支援をしました。

- 平成28年11月19日～12月7日 八洲学園大学生涯学習学部生博物館実習（於：当館内及びフィールドワーク）
- 平成28年12月14日 福島県立医科大学医学部人間科学教室生命倫理公開講座
テーマ：感染症対策と人権・ハンセン病隔離政策から見えてくるもの（於：福島県立医科大学）

・研修・講演等

普及啓発の一環として、各種の研修や出張講演を行いました。

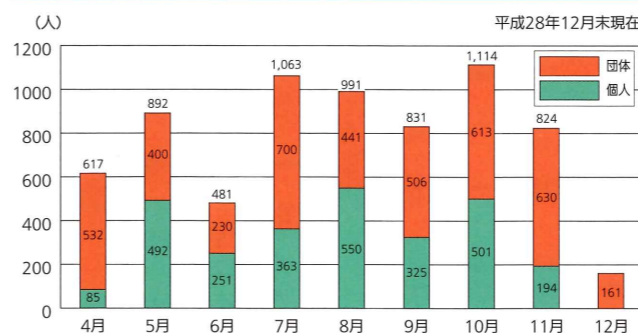
- 平成28年 4月14日 国立療養所栗生楽泉園新任職員研修（於：当館内）
- 平成28年 6月21日～23日 群馬県ハンセン病パネル展示会・展示解説（於：群馬県庁県民ホール）
- 平成28年 8月31日 国立療養所栗生楽泉園職員研修・ハンセン病基礎講座歴史編（於：栗生楽泉園講義室）
- 平成28年 9月16日 国立療養所栗生楽泉園職員研修・ハンセン病基礎講座医学編（於：栗生楽泉園講義室）
- 平成28年10月13日 藤岡市人権啓発指導員養成講座（於：藤岡市総合学習センター）
- 平成28年12月22日 上田市職員人権問題等研修会（於：上田市役所大会議室）

・語り部活動

普及啓発の一環として、ハンセン病回復者である3人の入所者の方々に語り部をお願いして、自らの声で貴重な体験談を直接お話しいただく語り部の会を開催しました。

期 間：平成28年4月30日～11月17日
開催回数： 11回
聴講者数： 205人（延べ）

・来館者の推移



お陰様で昨年10月には開館以来20,000人を超すお客様にご来館いただきました。今年度4月からの来館者数は平成28年12月末現在で6,974人（1日平均32.1人）となり、前年度を上回りました。平成28年は、らい予防法廃止20周年にあたる節目の年でもあり、多くの皆様にご覧いただきましたことを感謝いたします。今後とも当館の活動にご理解賜りますようお願い申し上げます。

※11/15～4/25の期間は、団体専用（要予約）となっております。

| | |
|-----------------------------|--------------------------|
| ホームページ閲覧回数 (平成28年11月末現在) | 今年度30,961回 延べ 89,581回 |
|-----------------------------|--------------------------|

お客様の声（来館者アンケートより抜粋）

- ◎この人がたの苦しんだ事は、同じ人間が努力し助け合うことで解決された（出来た）ものを、気づく事が遅れた事で申し訳なく思う。
(青森県、78歳と75歳・無職、夫婦)
- ◎私世代の人であまりハンセン病を知っている人は少ないのではないと思う。こうして群馬に施設があったこと、苦しんだ人がいたことを正しい理解とともに広めたいと思った。
(高崎市、17歳・高校生、女性)
- ◎職業上知識として知っていたが、知らなかった事件も多く大変勉強になった。無知の罪の大きさをあらためて感じている。
(千葉県、28歳・看護師、女性)
- ◎再現重監房に入ろうとした時、暗く、狭く、入るのをためらった。模型でもそうなるのに実際にそこに入るというのは、どういう状態かと思った。
(東京都、15歳・学生、女性)

【この他にも、多くの皆様からご感想をお寄せ頂きました。有難うございました。】